



ドームで作り上げた団結、味わった感動

八月三十一日、出雲ドームを会場に体育祭が行われました。優勝を目指して各科とも一致団結し、競技、応援に一生懸命取り組んでいました。ここでは、各科総括の感想を紹介します。



（選手宣誓をする各科総括）

「緑組」 植物科学科総括 波多野絆奈

「私が総括でも大丈夫なのか」と、すごく不安になったときがありました。また、準備のときに意見の食い違いがあり、亀裂が入ってしまったこともありましたが、そんな時、私がしっかりしないとダメだと思い、みんなと話し合っ、泣いたり笑ったりしながら解決していきました。そんなことがあった緑組だから、競技は4位でもデコや応援で1位をとることができたのだと思います。そしてそのことにも満足しています。高校生活最後の体育祭がこんなに素敵なものになってとても嬉しかったです。総括をすることができてとても良かったと思います。

「最後の体育祭」 環境科学科総括 高山 達也

今回の体育祭は、今までに経験したことのないくらい大変な思いをしました。「二年生の時は、先輩に言われたことをすればよかったのですが、今回は自分が先頭に立つて後輩に指導しなければなりません。ダンスを教えたり、皆をまとめるのは難しく大変であり、僕が教えてもらった時の先輩のすごさを感じました。でも、沢山苦労した分、体育をとても楽しくすることができました。結果は四位だったけれど、高校の思い出になるよい体育祭でした。」



（保育園児とGO！）

「新撰組」サムライフルー」 食品科学科総括 井野木和登

体育祭お疲れ様でした。今年は例年になく盛り上がりだったと思います。競技では、綱引きや色別対抗リレーなどで各色が一丸となり白熱する場面もありました。

青組はなかなかまとまらず苦勞することも数多くありましたが、最後には「二年生の協力も得て全員が一つになることができました。応援合戦では、サムライをテーマに、全員でインパクトのあるダンスを踊りきることができ、達成感に満ち溢れました。総合優勝することはできませんでしたが、全員で力を合わせてよい体育祭にすることができ、大変良い思い出になりました。

皆の支えのもと、総括という仕事を果たすことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。皆さん本当にありがとうございました。

「応援合戦」 動物科学科総括 浅津 遼

夏休みの終わりから体育祭の準備を始めましたが、最初は総括として何をしたいのか分からず苦勞しました。周囲と話し合い、総括の仕事が次第に分かり実行できるようになると、踊りやデコ、衣装の準備も安心してできるようになりました。当日は必死に練習してきた応援合戦のことばかりを気にしていました。特に、踊りのミスをしたのか、最後の見せ場である櫓が成功するかを不安とともに考えていました。

実際には、何度か失敗していた櫓を今まで一番上手く作ることができて、応援合戦の大成を実感することができました。また、目標にしていた赤組二連覇も達成することができ、とても良い体育祭にすることができたと思います。

インターシシップ実習 地域でずんだ5日間

「やればできる」
植物科学科二年 濱直人

私は浜村園芸という農家でインターシシップを行いました。主にシクラメンの葉ぐみ、土捨て、鉢の洗いものをしました。一番印象に残ったのは鉢の洗いものです。量がとても多く、一人で二五〇〇、四〇〇鉢位洗いました。どんどん洗う鉢が追加され先が見えなかったのですが、自分への試練と思つて作業することで乗り越えました。最終日の午後、最後の鉢を洗い終えた時には「やりきったんだ」と、達成感を味わうことができました。ずっと立つて手を動かし、「やればできるんだ」



（環境科学科
インターシシップの様子）

ということが分かったのです。このことを学校生活の、特に学習面で活かしていきたいです。インターシシップは辛いこともありましたが、とてもいい経験ができたので良かったです。

インターシシップで学んだこと

環境科学科二年 佐藤 光

私は斐川町にある福島造園実習に行きました。主な仕事は景修園という池泉回遊式庭園で、剪定された枝を集める作業でした。最初はただ枝を拾っているだけでしたが、次第に集めながら樹木を観察する余裕ができて、いい勉強になりました。職人さんの手際のよい作業にも圧倒されましたが、何よりも社会人としての気配りの素晴らしさに感動しました。私たち研修生の行動にまで細かく気を配っていただきました。私は両親から他人への気配りをしっかりとしろと言われてきましたが、素晴らしい見本をみせていただいたように思いました。これから、体力、精神力、コミュニケーション能力をさらに鍛え、一流の社会人になりたいと思います。

「肥育の奥深さ」 動物科学科二年 加藤里佳

私は佐田町にある肥育センター実習に行きました。朝は残飼と水のチェック、そして牛の様子を見ることが始まりです。後の餌やりにも関わって作業なので、職員の方は常に牛を観察しておられました。私達が主に任された掃除も、地味だけど大変で、とても重要な作業でした。当たり前のことを積み重ねていくことや、自分の目で牛の変化に気づくことの大切さと難しさを改めて学ぶことができました。

「インターシシップに参加して」 食品科学科二年 谷戸さおり

私はゆめタウン内のパルクロワッサンに実習に行きました。仕事内容は、主に厨房の掃除や接客、パン作りでした。インターシシップ中に私が一番苦勞したことは、声を出すことです。レジにいるときは勿論、厨房にいるときや少し離れた場所からでも「いらっしゃいませ」と大きな声で言わなければなりません。私は普段の生活や部活動で大きな声を出していますが、インターシシップではいつもの声が出せず、とても苦勞しました。店員の方はいつでもどこでも大きな声を出しておられ、すごいと思いました。声を出すことで店の雰囲気は良くなるので、大事なことだと強く感じました。これから私も、どんなときでも大きな声で明るい雰囲気を作れるようになります。

「インターシシップに参加して」 環境科学科二年 谷戸さおり

私はゆめタウン内のパルクロワッサンに実習に行きました。仕事内容は、主に厨房の掃除や接客、パン作りでした。インターシシップ中に私が一番苦勞したことは、声を出すことです。レジにいるときは勿論、厨房にいるときや少し離れた場所からでも「いらっしゃいませ」と大きな声で言わなければなりません。私は普段の生活や部活動で大きな声を出していますが、インターシシップではいつもの声が出せず、とても苦勞しました。店員の方はいつでもどこでも大きな声を出しておられ、すごいと思いました。声を出すことで店の雰囲気は良くなるので、大事なことだと強く感じました。これから私も、どんなときでも大きな声で明るい雰囲気を作れるようになります。

『「農」への思い』を読んで

学校長 桑原 克夫

一学期が始まりました。皆さんにとって夏休みはどうでしたか。体育祭で皆がひとつになつて取り組めたこと大変うれしく思いました。

さて、夏休みの課題のひとつであった『「農」への思い』について、少し感想を述べます。今回、先生方に全員数名未提出者もいますが、の提出を強くお願いし、皆さんが一生懸命書いてくれたことを思いながら全てを読みました。その一部を紹介すると、作物を「一から育てることで自らも成長したと感じた生徒、祖父母の農業をする姿と自らの栽培経験を重ねて、「農」の大切さを理解した生徒、自ら栽培することと食べ物との大切さを確認できた生徒など、色々な考えがあることを再確認し、改めて多くのことを得たような気がしました。その中である生徒が書いていた「多くの家畜の命をいただきます人間は生かされていると同時に、野菜などの命もいただいて生かされていることに気づいた」、これは私の気づけなかったことでした。こうしたことに気づく生徒の豊かな感性を感じました。

年に一度は皆さんが学んでいる農業について考え、文書にまとめることはよい機会であると私は思っています。来年度も皆さん全員が書いてくれた『「農」への思い』が読めることを楽しみにしています。

野菜大好き！作って食べよう わくわく食育体験事業

九月六日に開講式が行われ、今年度の食育体験事業がスタートしました。食べ物を育て収穫し、調理して食べるという一連の体験を親子ですることにより、食への興味や関心を育てることを目的として、出雲市内の五、六歳児とその保護者十組が来校されました。

開校式に続き第一回目の講座として、秋野菜の栽培について、播種、定植の方法や作業工程を植物科学科三年野菜専攻生が説明しました。

食育体験事業は十一月十八日まで四回、本校の園芸装飾室、野菜圃場を会場に開催され、ダイコン、ハクサイ、ジャガイモ、カブを栽培して、それを使った調理実習を行う予定です。



作業の説明をする野菜専攻生

第十九回出雲ドーム 2000人の吹奏楽

九月十一日出雲ドームにおいて、二十一世紀の地域文化を担っていく県内の小学・中学・高校生を中心に、県外招待も交えた参加者によるマーチングバンドの祭典が行われました。本校吹奏楽部も参加しましたので、その感想を紹介いたします。

『2000人の吹奏楽に参加して』 食品科学科二年 柳安奈

私は2000人の吹奏楽に参加してきました。オーブニングとフィナーレの全体演奏のみの参加でしたが、他校の

ジャズ部の聴いた日本

ネパールからのAFS留学生グプタ・サンジット(ジット)君が出雲農林高校に来て、半年が過ぎました。日本語会話が上手になったジット君が、日本語で学校生活を振り返ってくれました。

私は、出雲市大社町にホームステイしています。日本に来る前に日本語の勉強をしていたので、最初はほとんど会話できなくて大変でした。学校の英語の先生やAFS支部長さんから日本語の本をもらい毎日日本語の勉強をしているので、今頃は会話ができるようになりました。

皆さんと演奏する貴重な体験となりました。

今回は先輩方が引退されてから初めての外部での演奏だったので緊張もありましたが、無事に終えることができました。一、二年生合わせて十人の少人数ですが、今後も仲良く来年の夏に行われるコンクールに向けて頑張っていこうと思いますので、応援よろしく願います。



(出雲ドームでの演奏の様子)

友達も沢山できて、本当にうれしいです。また、ホストファミリーと一緒に海や温泉に行ったり、花火を見たり、祭りに参加したりなど、新しい経験をしました。

今までの一番の自慢は、校長先生の家でホームステイしたことです。沢山きれいな観光地に連れて行ってもらいました。家に泊まった時には、皆さんに暖かくしてもらい、ネパールの家族と同じような思いをしました。校長先生どうもありがとうございました。

ネパールと日本の勉強システムは違っていますが、とても楽しいです。先日の体育祭がすごく面白かったです。学校の先生や友達も優しく、勉強もとても楽しいです。僕は、本当にうれしいです。

ホストファミリーのお父さんとお母さんも親切で、優しいです。AFSの行事で大山に登りましたが、大きな体験の一つになりました。

日本の皆さんのおかげで、日本の生活は面白く、楽しいです。僕は日本が大好きです。ネパールに帰っても、また日本に来たいです。これからもよろしく願います。

リスザルの赤ちゃん誕生

九月の初めにリスザルの赤ちゃんが生まれ、ふれあい動物園に新しい仲間が加わりました。どうぞよろしく願います。



(動物科三年高橋未帆さん撮影)

メールシステムの案内

PTA総会時にお話していましたが、学校と保護者間の連絡用に携帯メールを利用することについて、九月より開始いたしました。これは、大雨・台風など災害時の緊急連絡や、学校から保護者の皆様にご連絡のご案内いたしました文書の中で、特に必要性が高いと判断したものをメールでもお伝えするものです。

なお、恐れ入りますが、次のことについてはご理解ください。

※すべての連絡を携帯メールで行うわけではありません。

※メールは学校からの一方通行です。返信は受け取りできませんのでご了承ください。

※メールの受信料は各自負担になります。

この件に関する問い合わせ
TEL0653)28-0321
教頭 三浦 一弘まで